

令和4年度 事業報告書

特定非営利活動法人 くすの木自然館

1. 事業の方針

With コロナ時代として、緊急事態宣言等の規制のない一年になることを念頭に、今年には特に自主事業を伸ばしていく年にするようにしたが、目標には達しなかった。他の事業者と連携し、「錦江湾の自然大満喫ツアー」を新たな事業の柱となるようにし、ツアーを作りあげたが広報等が足らず利用者の増加までには至らなかった。特にサステナブルなツアーの在り方や錦江湾での観光の在り方などのルールづくりを各所と連携して作り上げた。

また、なぎさミュージアムの学術的な価値を高めるために、大学や博物館と連携して、調査・研究、発信により力を入れた。

【主な事業】

① 「重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム」委託管理

コロナ禍ではあったが、過去最多の来場者となった。新規来館者がリピーターになってくれることも多く、地域に根差した国立公園の展示施設としての役割を担っている。

② 鹿児島県共生・協働センター運営委託事業

「鹿児島県共生・協働センター」の運営委託管理事業。これまでの取り組みをもとに、「鹿児島県」「一般社団法人テンラボ」との3者協働により、鹿児島における共生・協働の在り方を推進できる施設としての企画・展示を行うことができた。

相談対応「カタラボ」の数は年々増えており、いたずらにNPO法人の数を増やすのではなく、理念や活動方法をしっかりと考えた市民団体のサポートを行った。

③ 海の学びミュージアムサポート助成 重富海岸の生物調査と図鑑の作成、環境教育プログラムの実施事業

重富海岸や小浜海岸の生物相の把握と普及啓発教材の作成、それを活用した環境教育プログラムの実施を行った。大学の研究室などと協力し、調査を実施し、その結果を元に錦江湾奥の干潟としては初めての図鑑が完成し、好評を得た。

④ 4 園館合同企画

「かごしま水族館」「平川動物公園」「かごしま環境未来館」と共に、一つのテーマで特別展や講座を行った。昨年ほどの規模にはならず「連携」講座を行った。

⑤ ESD 活動拠点と行う体験型環境教育推進事業

鹿児島県の事業。徳之島にて、体験型の持続可能な社会づくりを行う子供たちを育成することを目的に行う環境教育事業。徳之島の2つの小学校を対象に、自分たちの見ている風景の特異性とすばらしさを実感できる授業を行った。

⑥ 企業と連携して行う自然体験事業

トヨタソーシャルフェス、甲突川リバーフェスなど実施。

⑦ 自然大満喫ツアー（主催）

これまでのツアー実施だけでなく、JTB や観光連盟からの依頼でツアーを行うことが出てきた。徐々にツアー金額を適正価格にあげたが、本格運用は R5 年度からになる。絶対的に受け入れ数が少ないため、広報周知が今後の課題。

⑧ 講座、物販（主催）

昨年度「サステイナブルショップ」として新たに売り出し始めた。物販としては年間売り上げ目標を達成した。今後、出店や物販数などを増やし、ますますの売り上げを伸ばす。